

コウモリバエの採集記録

本庄四郎

竹野町の海岸には、海蝕洞が随所にみられる。竹野町東町の通称“いわがな洞窟”もそのひとつであり、考古学者はこれを指して縄文期の住居痕跡の発見の可能性ありと見ている。この“いわがな洞窟”にコウモリが生息していることはかなり前から聞いていたが、中に入ってみたことはなかった。

1988年の夏、哺乳類の研究者である中川明氏と入ったときは、ただの1頭に逃亡されからぶりに終わった。その後、12月になって数人の子どもたちがコウモリの死体を持っている場面に偶然遭遇して、2頭のコウモリを譲り受けた。コウモリの死因は子どもたちのモデルガンに狙撃されたことで、子どもたちに無抵抗な弱い生き物の殺生はいけないことを説いて聞かせた。

こうして、皮肉な経過で目のあたりにすることのできたコウモリは、中川氏の同定によるとコキクガシラコウモリであった。家にもちかえって冷凍保存すべく準備をしていると、体の背面にうごめく数匹の虫に気付いた。「さてはダニか」とよく見ると、なんとハエであった。

昆虫図鑑で調べると、コウモリバエ *Brachytarsina kanoi* であった。色はコキクガシラコウモリの体毛に酷似した黄褐色で、体全体が毛深い。頭部は比較的小さく、複眼は痕跡的である。胸部は大きくまるみを帯びて、短い毛が密生している。脚は丈夫で、爪がよく発達している。腹部は細めである。

いったいこの奇怪な昆虫コウモリバエは、どんな生活史と生態をもっているのだろう。関連した文献、情報をお持ちの方は、是非お教えいただきたい。

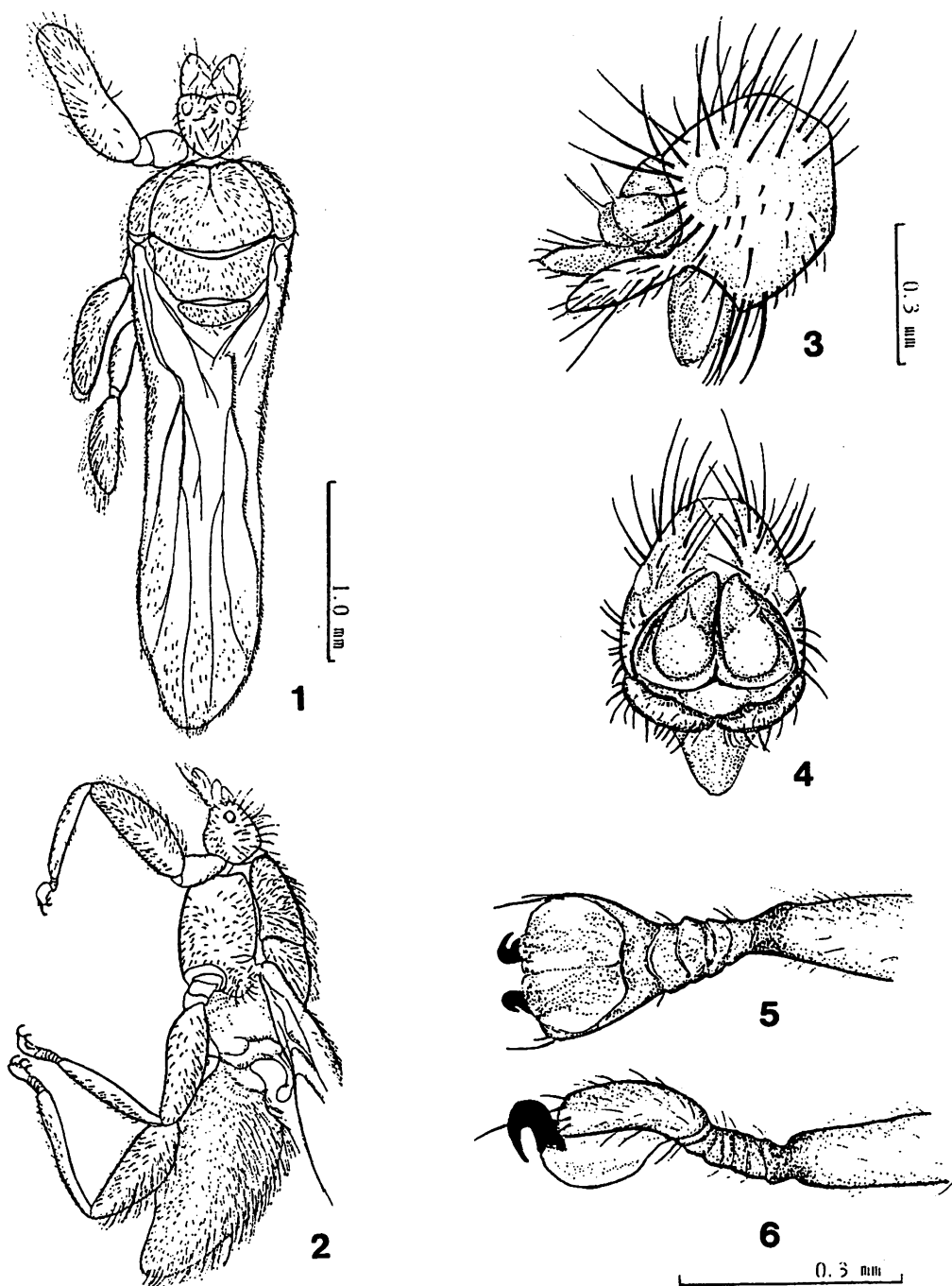
<採集データ>

コウモリバエ *Brachytarsina kanoi* Maa

1988年12月11日 採集個体7頭

兵庫県城崎郡竹野町東町ジャジャ山いわがな洞窟

(宿主 コキクガシラコウモリ)



採集したコウモリバエ (山本一幸・原図)

1. 全体(背面) 2. 全体(側面) 3. 頭部(側面) 4. 頭部(前面)

5. 第1脚(腹面) 6. 第1脚(側面)